



福井大学教育学部
附属義務教育学校

No. 2

令和8年10月5日

学校だより

「やってみたい」の、その先に

校長 水野 涼子

例年の教育実習を控え、見返していた生徒指導提要の「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動」という文言が目にとまりました。これまでも幾度となく目にしてきた「自発的・主体的」という言葉が、なぜか今回は特に気になりました。

これまで私は、「子供が主体的に活動する」ことを大切にしてきました。一方で、「自発的」という姿を、どこか「主体的」にはまだ到達していない、未熟な段階としてとらえていたように思います。けれども、幼稚園から9年生までの子供たちの姿を日々見たり、いろいろなエピソードを伺ったりする中で、その見方が少し変わってきました。

幼稚園に、ピタゴラススイッチが大好きな年少さんがいます。最初は、「ピタゴラススイッチをやりたい」と、自分の思いのままに夢中になって作っていました。完成すると、友達と一緒に遊び、作りながら遊んでいるうちに壊れてしまいました。次の日、その子は「修理屋さんになりたい」と言いました。そして、壊れたところを直すことに夢中になりました。その次には、「ピタゴラススイッチ屋さんになりたい」となり、友達や先生に遊んでもらうことを楽しんでいました。「やりたい」という思いから始まった遊びが、友達との関わりの中で、「直したい」「みんなに遊んでもらいたい」という思いへと広がっていく。その姿から、子供の中で何かが育っていく過程を感じることができました。

4年生の社創（社会創生プロジェクト）でのエピソードも、考えるきっかけになりました。「明新地区をきれいにしよう」という思いから、子供たちは、動画をつくり始めました。「再生回数稼ごうぜ!」と楽しそうに活動しているものの、なかなか先に進みません。そこで先生が、本物の動画をYouTubeで探してみてもうかがうと声をかけました。すると、子供から「僕らの動画を見ても、“明新地区をきれいにしよう”とは思わないな」という言葉が出たそうです。「再生回数を伸ばしたい」から、「動画で思いを伝えたい」へ。自分から動き出していた子供たちが、活動の目的をとらえ直したことで、次に何をすればよいのかを自分たちで考え始めたようです。

これらの子供たちの姿から、「自発的」と「主体的」は、どちらが上というものではなく、つながりながら、時には行き来しながら、子供の育ちを支えているのではないかなと思うようになりました。

8年生の学歌実行委員会のエピソードからも感じたのですが、「自発的」とは、自分の興味や関心から「やってみよう」と一歩を踏み出すこと。そして「主体的」とは、その一歩の先で、自分なりの目的をもち、考え、選び、決めていくこと。そして、こうした歩みは、子供自身だけで生み出し、進めていくものではないということにも気付きました。

それを支えているのは、大人の声かけや環境づくりはもちろん、子供自身の気付きや考え、そして、一緒によりよいものをつくろうとする仲間との関わりです。自分自身を振り返ったり、友達と対話を重ねたりしながら、「では、次はどうするか」と考えていく。その過程の中で、子供たちは少しずつ、自分なりの考えをもち、次の一歩を生み出していくのだと思います。

本校では、子供たちが自分で考え、判断することを大切にしています。また、人と関わり合い、ともに考え、よりよいものをつくっていく過程も大切にしています。そういった子供たちの姿からは、本校の校訓である「自主協同」という言葉が重なって見えます。

「自発的」な一歩を大切にし、その一歩を「主体的」な学びへとつないでいく。その過程を、大人も仲間も支えていく。子供たち一人一人の「やってみたい」という思いを大切にしながら、自ら考え、仲間とともに歩んでいく力をご家庭とともに育てていきたいと思っています。

<子供たちの様子>

○前期課程



↑ 土と砂と仲良くなろう(1年生)
造形の学習でグランドの花壇を使って、みんなで土の変化や感触を楽しみました。



↑ グラたんプロジェクト(4年生)
理科「雨水のゆくえと地面のようす」の学習から発展して、グランドにたんぼを作って、米を栽培するプロジェクトを進め、無事米を収穫できました。

↓ いきものバンザイプロジェクト(2年生)
社創の活動で7つのチームに分かれて探究中の2年生。そのうちの1チームが2匹のモルモットを飼っています。



↓ 5・5交流(5年生)
附属幼稚園の5歳児の子たちと年間複数回交流をしています。園児との交流を通して、優しい気持ちが育まれていくことを期待しています。



↑ 美山地区の様子を知ろう(3年生)
社会「市の様子」の学習の一環で、山に囲まれた美山地区の様子を調査しました。



↑ 算数・数学合同授業(6年生)
8年生が数学の学習で企画立案した確率ゲームを6年生が体験しました。8年生が学んだ確率の学習が算数で学ぶ「場合の数」とつながっていることを実感しました。

○後期課程



↑ 志航祭(8年生)
社会創生プロジェクトで「地域貢献」を掲げて探究してきた成果をもとに、福井駅前や介護施設、海水浴場で地域の方と交流するイベントを行いました。

↓ 文化祭 社創発表(7年生)
学年目標決めを通して得た気付きや考えを「会社」を例に劇で来場者に分かりやすく伝えました。その後の他学年とのラウンドテーブルで質問や意見を受けながら新たな視点を得ました。



↓ 文化祭 部活動・委員会展示企画
前期児童や来校者を交え、クイズや工作、理科実験、スポーツ体験など楽しく参加できる企画が多数用意されました。



↑ 文化祭 学級演劇(9年生)
9年生は文化祭にて本校の伝統である演劇を上演しました。各クラスが脚本の内容を深く読み取り、役者だけでなく照明や音響、舞台制作など全員で協力して作品を創り上げました。